

隠岐圏域(林業)プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成24年度)

達成状況判断基準: 100%以上→「達成」、80%以上100%未満→「概ね達成」、80%未満→「未達成」

| NO | プロジェクト | 全体評価(総括・検証) | 成果指標と達成率 | | | | 達成状況 | |
|------|--------------------|--|--------------------|--------|--------|-----|------|------|
| | | | 項目名 | H24目標 | H24実績 | 単位 | | 達成率 |
| 隠岐-1 | 隠岐(しま)の木生産拡大プロジェクト | <ul style="list-style-type: none"> ・島内の木材生産は、主伐対策や路網整備・高性能林業機械の導入による木材生産の効率化により、本年度の原木生産量は目標を達成した。 ・森林経営計画策定(木材生産団地)は、事業体毎にバラツキがあるものの、策定作業に取り組んでおり、順調に進んでいる。 【H24策定見込み 4,000ha】 ・低コスト木材生産の取り組みは、各事業体が路網整備や高性能林業機械を導入するとともに、各種研究会を開催し、作業システムの改善に取り組んできた。ただし、急傾斜地での木材生産を行うためには架線系集材の導入が必要であり、引き続き事業体等との検討を進める。 ・各事業体とも主伐対策に積極的に取り組んでおり、昨年度を上回る伐採を実施している。伐採後の更新への意識が浸透し、植栽が必要な伐採地では再造林が計画されている。また、伐採者・造林者が異なる事業体連携にも取り組み、確実に更新が図れるよう調整を行った。 | 木材生産団地からの原木生産量[単年] | 12,500 | 12,500 | m3 | 100% | 達成 |
| | | | 伐採跡地等の再造林面積[単年] | 10 | 9 | ha | 90% | 概ね達成 |
| 隠岐-2 | 隠岐(しま)の木利用拡大プロジェクト | <ul style="list-style-type: none"> ・島内の木材利用は、公共事業や町単補助事業で積極的に隠岐産材が利用されたことにより、本年度の製材品出荷量はほぼ計画を達成した。 ・島内製材所への原木安定供給のための需給調整は、供給量の調整は定着した。公共需要の早期把握など、更なる改善に向けた課題も確認できた。 ・合板用原木の島外出荷については、合板の取引価格が下がる中、主伐への取組による木材生産の増加により、一定量の出荷を確保することができた。 ・島内流通の合理化と、島外出荷拡大に向けた流通の仕組みの検討に着手したところであり、今後の具体化に向けて検討中。 ・隠岐の島町においてペレット製造施設導入に向けた検討に着手、これに併せてペレットストーブの展示など普及啓発活動を実施した。 | 製材品出荷量 | 2,300 | 2,250 | m3 | 98% | 概ね達成 |
| | | | 合板等島外出荷量 | 6,000 | 6,150 | m3 | 103% | 達成 |
| | | | 低質材利用量 | 10 | 10 | m3 | 100% | 達成 |
| 隠岐-3 | 原木しいたけ振興プロジェクト | <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト推進の前提となるクスギ原木林のデータベース化を鋭意進めており、正確な資源情報を確定させつつある。これを受けて、隠岐の島町クスギ造林造成計画を策定し、来年度以降、必要なクスギ林の新規造成や既存林の適正な管理を進めクスギ原木の安定供給システムを構築する。 ・販売では、農外参入企業の県外販売ルートが安定的確保されてきた。また、JAと農外参入企業の連携も開始され、今後の有利販売に向けた展望が見えてきた。 | 乾しいたけ生産量[単年] | 5.5 | 5.0 | t | 91% | 概ね達成 |
| | | | 乾しいたけ販売額[単年] | 17 | 16 | 百万円 | 94% | 概ね達成 |
| | | | 生しいたけ生産量[単年] | 19.0 | 19.0 | t | 100% | 達成 |
| | | | 生しいたけ販売額[単年] | 25 | 25 | 百万円 | 100% | 達成 |
| | | | 原木供給量(原木販売量)[単年] | 70,000 | 80,000 | 本 | 114% | 達成 |
| | | | 新規クスギ造林面積[累計] | 0 | 0 | ha | — | — |